

長寿の湯の一時休業に係る説明会 資料

長寿の湯が市の管理運営終了に至った経緯について

1 現況

長寿の湯は、平成10年4月に健康長寿センターの開業と合わせて営業を開始しました。開業年は約13万人の方に利用いただき、その後、平成30年の施設修繕による休館やコロナ禍により利用者が大きく減少した時期を除いて、毎年平均的に年間で約10万人の方（令和5年度は101,901人）が利用しています。

長寿の湯の運営にかかる収支は、直近の令和5年度では、使用料収入が約2,300万円であり、経常的な運営費用は約5,300万円です。この他に設備の老朽化から随時施設修繕が発生し、現在の指定管理者（株）那須環境技術センターが管理している期間を集計すると、年平均約900万円の費用がかかっています。このため、近年は収支差額が3,000万円を超える状況が続いています。

※別紙参照

2 施設の在り方の検討について

令和4年度に、計画的かつ効率的な行財政運営を推進するために市の全ての事務事業の棚卸が実施され、市有施設の在り方について見直しが行われました。

長寿の湯は、「民間の日帰り入浴施設があること、また、施設の老朽化が進み維持管理経費が高額になっていること」を理由に、廃止・縮小の方針で今後の在り方を検討することとなりました。

事業棚卸の方針を受け検討した結果、将来的な財政負担の軽減等を理由に、令和6年度末で長寿の湯の市の管理運営を終了すること、今後の長寿の湯の在り方について、民間による活用の検討を開始することを、令和6年2月の本市議員全員協議会で報告しました。

今後の長寿の湯について

1 令和6年度の対応について

令和6年度末をもって長寿の湯は市の管理運営を終了することから、以降の市有施設の有効利用のため民間活用の検討を開始し、令和6年4月に民間事業者のサウンディングを実施したことを皮切りに、様々な手法で施設の活用の検討を進めました。

市民の方から温泉継続の声があること、将来的な財政負担の軽減を終了の理由とすることから、民間活用に際しては主に次の内容を条件としました。

- 温泉を継続すること
- 市は継続的な財政負担を行わないため、独立採算型の事業であること

※一方で、柔軟な民間意見の取得のため、温泉を利用しない活用方法についても意見を募りました。

様々な手法により検討を継続していますが、現時点において、温泉を利用しながら採算性が確保できるような事業提案を得るに至っていません。

2 令和7年4月からの長寿の湯について

令和6年度末（令和7年3月30日（日））で長寿の湯は市の管理運営を終了しますが、令和7年4月に長寿の湯のスペースで民間事業を開始することは難しいことから、入浴施設は休業となります。

今後も民間事業者への働き掛けを行う等施設の活用方法の検討を継続し、方針が定まり次第、広く周知をして参ります。